

ローカルアイドルによる地域活性化  
—酒田中町商店街発のアイドル「SHIP」を事例として—

大野和也

論文要旨

本研究では、中心市街地並びに商店街の現状を踏まえながら、特に山形県酒田市の中町商店街において誕生したローカルアイドル「SHIP」を事例として、ローカルアイドル誕生の背景から、「SHIP」がこれまでにプロデューサーや商店街、またそれ以外の人にどのような影響（効果）を与えてきたのか、また現在、「SHIP」は活動を休止しているが、そこから見るローカルアイドルの課題と解決策を検討することで、ローカルアイドルによる地域活性化の有効性を明らかにすることを主な目的とした。

「SHIP」は、商店街の売上げや観光客数といった量的な面ではそれほど大きな影響はもたらさなかった。しかし「SHIP」を通して、他の商店や色々な人との間で交流が生まれ、商店街全体が一体となるなど、質的な面では非常に大きな影響をもたらしたと考える。また「SHIP」がローカルアイドルの中では比較的長期間継続し、また成功を収めたのは、勿論彼女達の努力もあるが、何よりプロデューサーを含めた関係者や商店主が、常に何とかしなければ、このままではいけないといった想いを持ち続けたことが大きいといえる。

「SHIP」は当初の理念から止む無く活動を休止したが、実際には多くのローカルアイドルが短期間で誕生・消滅を繰り返しているのが現状である。確かにメンバーを入れ替えるという大きな変化も必要だが、何より大事なものは継続性である。その意味では常に小さくても何かしらの変化（活動）をしていることが重要であると考えられる。決して無理をせずに、自分たちが出来ることを出来る範囲でやれば、「SHIP」のようにアイドルで地方・商店街を活性化することは可能であるし、まずはとにかくやってみようという気持ちが、地域活性化には不可欠であるといえる。逆にそういった意味では、アイドルでなくても地域活性化は可能であり、酒田が成功したのは、アイドルを使ったからというよりはむしろ、本人たちや関係者の意識の面が大きかったといえる。

また継続性と同様に大事なものは、決してダラダラとローカルアイドルの活動を続けていくのではなく、あくまでローカルアイドルは地域活性化のための初期段階、これからの活動の上での下地であるという意識を持つことである。地域の活性化を考えた場合、これをやったから活性化が長期間成功・継続する取り組みというのは殆ど無いに等しい。やはり社会情勢が常に変化しているように、活性化の取り組みというのも常に変化していく必要がある。そういった意味では、ローカルアイドルによる地域活性化は、コストや労力の面から考えると、活性化の入り口としては非常にやりやすい、有効性の高いものであるといえる。そして忘れてはならないのは、ローカルアイドルの取り組み、活動で培った経験を、新たな取り組み、別の活動にどう活かしていくかということであり、それが出来れば、今後も継続して地域の活性化は進んでいくと考える。